

# はっけん

2020年10月発行

九州手話サークル連絡協議会

新型コロナウイルス感染症、豪雨、台風、などいろいろな災害が続く令和2年度ですが、各県手連、各サークルはどのような状況または取組をされているか報告をして頂きました。



『アマビエ』とは、

江戸時代後期、肥後国(現在の熊本県)の海が夜ごと光り輝くことがあった。

役人が調べに行くとアマビエと名乗るものが現れ、「当年より6ヶ年の間は諸国で豊作がつづく。しかし同時に疫病が流行するから、私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ」と告げて消えたといわれる妖怪。

疫病退散にご利益があると言われているので載せてみました。

## 県手連の自粛期間中の取組(長崎県)

### 〈県手連各行事〉

感染拡大が広がる中、多くの手話サークルが活動を休止していましたが、長崎県手連も評議員総会や一泊交流会など大きな行事を中止せざるを得ませんでした。

### 〈評議員総会〉

郵送による書面表決で行いました。経験のないことだったのでみんなで情報を寄せて知恵を絞りつつ、各議案に関して詳しい説明文をつけるなど、対面でないからこそできるだけの配慮を工夫しました。

### 〈各会議〉

事務局会議や理事会は、zoom や LINE を使ったオンライン会議で行いましたが、これも経験のない人が多く、みんなで練習をしてからスタートしました。

最初は会議が始まるまでにずいぶんと時間がかかりましたが、そのうちスムーズになり、今ではオンラインでのメリットも分かってきて、以前よりも会議や打合せを開きやすくなりました。

### 〈研修〉

年に一度の研修を計画中ですが、どうにか集合して開催できないか日々頭をひねっております。すべてを中止にする、ではなく、この時代に即した方法を上手に取り入れながら、「活動が小さくならない」「繋がりが希薄にならない」そんな方法を模索中です。

### 〈課題〉通信費

オンラインを利用するに伴い、通信費のことが懸念されました。各ブロック活動では zoom 無料版を使うなど工夫しながら対応しています。しかし、オンライン会議に参加するにあたって、各理事個人のインターネット環境を利用することになりますので、県手連として各理事への通信費の支払いについて理事会で検討中です。

### 〈得たもの〉

最初はこの新しい生活様式に慣れず戸惑うことが多かったのですが、実際にやってみると、「島部や遠方からも参加しやすい」「仕事をしていても時間調整しやすい」「会議の日程調整がしやすい」など、メリットにもたくさん気づきました。

県内手話サークルも6月以降少しずつ活動を再開しているところが増えつつあります。長崎県手連でも、新しい時代に即した方法を取り入れながら、今までの方法とも融合させてより元気に楽しく活動を続けていきたいと思っています。

長崎県 田中沙織

## 遠隔手話通訳事業説明会について(福岡県)

2020年6月28日(日)10:00～  
クローバープラザ 508 号室

新型コロナウイルス感染拡大防止緊急事態宣言が終了し、少し落ち着いたところにクローバープラザにて開催されました。

3密を防ぐため、午前、午後と地区で分け、入口ではアルコール消毒、マスク着用、発表者には手作りの透明のアクリル板を準備され、30名ほどの参加者。

福岡県でも新型コロナウイルス感染疑いで聞こえない方への手話通訳が必要になりました。結果は、すべて陰性であったものの、発熱がある方への手話通訳派遣に注意が必要です。あくまでも手話通訳派遣は対人であり、現場に通訳者を派遣するのが原則ですが、コロナ禍では手話通訳者の健康も守る必要があり遠隔手話通訳の導入を福岡県とすすめてきました。

県手連のメインPC2台に加えタブレット4台を準備。遠隔手話通訳のアプリは、LINE(ライン)、Skype(スカイプ)、ZOOM(ズーム)。聞こえない方にアプリをインストールしてもらう、またはネット環境のない方には受診先に県手連からタブレットを貸出し、遠隔手話通訳をする。遠隔通訳を依頼する方法は、通常通り、県手連へ申請することなどの説明に加え、遠隔手話通訳と電話リレーサービスの違いの説明もありました。

福聴連の古本さんからは、実際に3種類の方法を聞こえない方に使ってもらい実演。なかなか、使う側も初めてでできこちない。説明動画も手話の例会で活用し、聞こえる方も勉強してほしい。ICTを駆使するのは、苦手という方もおられると思いますが、積極的に勉強してコロナ禍に備えましょう。

## 「遠隔手話通訳サービス」事業導入の取組(福岡県)

新型コロナウイルス感染症対策として、国は緊急事態宣言を発出するとともに「コロナ緊急経済対策」を打出したことに伴い、福岡県でも700億円を超える補正予算を決定し、聞こえない人に対する情報保障と手話通訳者の感染リスクを軽減するため遠隔手話通訳サービス導入に必要な予算を確保したことを受け、県の手話通訳事業を受託する県手連として予算要望協議を行い県補助金にて県手連事務室内にパソコン2台と端末タブレット4台を新規購入しこれらの機器にビデオ通話アプリ(LINE・Skype・Zoom)をダウンロードしてろう者等が持つ各種端末との通信開始を可能とした。

本事業は既存の福岡県手話通訳者派遣事業の一環として実施するものであり、導入時の設備費以外の通信費を含む経常経費は通常の県派遣事業予算において処理することとなる。事業に必要な準備が整った後、県認定試験等々で協同する福聴連の協力を得て機器操作マニュアルを作成するとともに、利用者に向けた啓発チラシ及び啓発動画(DVD)を作成し、県内のブロックごとの利用者説明会を開催して遠隔手話通訳事業の実施に向けて啓発活動を展開した。

しかし聞こえない人に対する情報保障は当事者の言語を基本に手話や要約筆記等の意思疎通手段を原則とすることは当然であり、ここで提供する意思疎通支援は「直接対面」が基本である。これを原則としながら新型コロナウイルス感染症対策の中で、医療機関や保健所等における情報保障手段として限定的に使用する遠隔手話通訳の役割について具体的な課題等々を整理していくとともに、今後は遠隔手話通訳サービスの活用法として災害発生時等の情報保障も含めて遠隔手話通訳事業の存在と役割について、県及び市町村行政機関や医療機関等々へ周知を行うとともに、既存の市町村手話通訳者設置事業、及び市町村手話通訳者派遣事業との効率的な連携を求めていく。

福岡県 太宰府手話の会 山本 美代子

## 「令和2年7月熊本県南豪雨災害」被災地より報告(熊本県)

7月3日 21:30 アルバイトを終え、店舗には深夜の豪雨を警戒して止水板を設置して帰りました。同僚と「雨やばそうですね」とスマホでアメダスを確認しながら帰宅。母と日常生活を送る実家は、ハザードマップで浸水危険区域の際にあり、球磨川本流まで北におよそ120m、その支流、胸川(むねかわ)まで南東におよそ50mに挟まれた三角地帯に位置しています。常に浸水には警戒していました。

明け方までスマホは警報を鳴らし、避難を呼びかけましたが、滝のように降る雨と深夜の暗闇で車を出すことはばかられ、アメダスの雲の動きをにらみながら、明け方まで避難のタイミングを待ちました。私の避難先は、ろう者情報提供室「We Rou(ういろう)」としても使用している平澤邸です。高台にあるので、浸水の心配はゼロです。

断水を警戒して、実家のお風呂に水を張り、空いたペットボトルに水を入れ数本用意。1階にある着物や茶道具、米や食料など出来る限り2階へ運びました。午前4時過ぎ(おそらく最初の決壊が発生した頃)市長の切羽詰まった避難の呼びかけの防災無線が聞こえました。雨の音の中でも、耳に届きました。「ただ事ではないな！」

と感じましたが、まだ外は暗く雨足も一向に収まりません。数回、ろう協球磨支部とのグループLINEに呼びかけましたが、もちろん反応が無く、心配が募ります。5時半、夜明け周囲の状況が見渡せるようになりました。83歳の母と2匹の猫、なかなか避難しようとしません。「大丈夫やろ。」という母、これがあの正常性バイアスというやつか、焦りますが下手に緊張を煽るのも、と考えゆっくり促し7時過ぎむね川が決壊。(ようやくこの頃、LINEにろう者の皆さんから無事を知らせるメールが届き一安心)濁流が我が家に押し寄せてきました。車に一度乗り込みましたが、すでにタイミング遅し、左右の道路は冠水し避難を諦め、車を目の前の人吉城内の高台駐車場へ移動させ家の2階へ避難。8時過ぎ、球磨川が南側も決壊(この時すでに川向う北側は決壊浸水していたと思われる。)しました。濁流が左右から押し寄せましたが、実家は壘を超えたところで浸水が止まりました。やっと雨が小康状態に、青空も見え、心配されたダムが放水が中止となりました。ほっと一安心。一時ライフラインが止まったこともあり、現地においても全体の被害の状況はわかりませんでした。その後は皆様報道の通りです。

あれから、あっという間の1か月。毎日掃除に片付けに追われ、飛ぶように日が過ぎました。自然には人間は非力です。日本中いどこでこうした災害が起こるかわかりません。防災に対する日頃からの心がけと、早めの避難、自分の住むところがハザードマップでどのような位置にあるのか、しっかり把握することが大切だと感じました。

今回、たくさんの方々からの支援、協力、励ましを頂き、心から感謝申し上げます。こんなことでもなければ感じる事が無かったかもしれない、地域とのつながり、人とのつながりを実感できたことに感謝しながら、酷暑の空を見上げております。皆様どうぞご自愛ください。

熊本県 人吉・球磨わかぎ 平澤ちえ子

## コロナ禍による自粛期間中の取組報告(熊本県)

新型コロナウイルスの脅威がなかなか収束しませんが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

熊本県手話サークル「わかぎ」の自粛期間中の取組みですが、令和2年3月から約3ヶ月、県内11の各地区わかぎは活動休止状態でしたが、6月から一部のサークルを除いて一旦、活動再開しました。

自粛期間中は公民館等が使えず、サークル活動自体が行えない状況に陥りましたが、この間、Zoomによるテレビ会議システムで役員会や理事会試行テスト等を行

い、6月14日の県わかぎ定期総会では、リモート参加が4名いました。これからの会議方法として、有効かもしれません。

さらに、九州内に限らず、全国の手話サークル連絡協議会ともグループLINEによるオンライン会議を行い、積極的に情報交換・情報共有を行ってきました。

サークルの取組としては、YouTube や LINE 動画等をサークル会員やろう者に配信し、情報共有とともに、手話学習にも繋げてきました。

また、外出できずストレスが溜まっているろう者にLINE電話にて手話で会話することで、会って交流できないけれど、ろう者に寄り添った働きかけを行うことができました。

今年度は、様々な行事・イベントが中止する中、活動が制限されるので、県わかぎへの会費を3ヶ月相当分減額しました。また、震災や風水害等の自然災害以外の今回のような疫病流行時におけるサークルの活動、支援のあり方を今後検証することにしています。

そのような中、7月豪雨災害が起き、人吉・球磨地域をはじめ熊本県南のサークル会員宅に甚大な被害が発生しました。災害救済対策会議を設置し、支援カンパ活動を中心に行ってきました。

残念ながら、第二波とも言える新型コロナ感染拡大により、8月からまた各サークルは活動自粛状態にあります。8月2日の県わかぎ理事会は、熊本聴障センターに集まったの開催でしたが、4サークルの理事がリモート参加でした。



コロナ感染防止の観点と、今回の豪雨災害復興途上もあって、誠に残念ながら、今年度の県わかぎ研修会の開催を断念しました。次年度以降のオンラインによる研修会(Webセミナー)開催の可能性についても、今後、検討を開始する予定です。

熊本県 わかぎ事務局長 森 保夫

## 高齢者サロンについて(佐賀県)

佐賀県手話の会連絡協議会では、高齢ろうあ者の仲間・居場所をつくり、閉じこもりを防ぎ孤立と孤独を防ぐため、2016年12月より佐賀県聴覚障害者協と高齢者サロンにを始めました。

初めは月1回の開催でしたが好評のため、今年度から月2回開催となりました。会場は主に佐賀県聴覚障害者サポートセンターを利用。毎回約10~15人程度集まります。



2016年12月14日 初サロン … 指文字カードを組み合わせて「単語」作り



2017年5月 お手玉づくり



2017年7月 コースタ



2018年11月 オセロ大会



2019年12月 クリスマスツリー作り

聴協と佐手連で高齢者サロンを立ち上げ、作品だけではなく、多くの思い出を作ってきました。

佐賀県 唐津手話の会 富田芳郎次

## 県手連、サークルの取組(大分県)

県手連は、6月の総会、理事会が中止となり、書面決議での報告となりました。第2回理事会は10月に開催予定ですが、密を避けるため各サークル1名の参加で行います。例年行われる交流会は中止となりました。

各サークルの状況は早くは6月から、大部分は7月から再開しました。まだ一部は休止状態もあります。

大分市手話サークルはぐるま夜の部は、会員が多いため2つの部屋にわけ、ZOOM でつないで再開しているなど、工夫しながらの状況です

別府市手話サークルにじ夜では、3月上旬より市内の公共施設が使用できなくなりサークルも休止になりました。

6月より再開しましたが、部屋の人数制限で使用人数の半分までとなりました。現在使っている部屋が40名なので20名までです。幸い会員がちょうど20名なので、全員参加もできますが、各自間隔を開けると10名～15名までが限界でした。

## 別府市手話言語条例 制定について(大分県)

令和2年6月29日(月)、別府市市議会定例会で「別府市手話言語条例制定」が、無事に可決されました。

平成30年10月に手話サークルにじ夜・昼の役員合同でプロジェクト会議はじめてから、請願書提出、審査、その後別府地区聴覚障害者協会事務局を中心に作業部会立ち上げ進めてきました。その結果、このコロナ禍のなか、条例が可決されたことは、本当にうれしく、関係者皆様のご尽力に敬意を表します。今後は手話の普及と手話による意思疎通ができるようになることを期待しています。

大分県 別府市手話サークルにじ夜 高治克己

## 鹿児島県からの報告(鹿児島県)

### 【新型コロナウイルス関係】

全国で感染が拡大した当初、感染者数が一桁だった鹿児島県ですが、飲食店でクラスタ発生を機に、各地区サークル活動が休止となりました。7月くらいから再開するサークルが出てきましたが、地域の感染状況に合わせて休止のままの地域、再度休止を余儀なくされた地域とあります。

サークル開催にあたっては各サークルで3密を避け、換気に気を配りながら活動しているようです。サークルでフェイスシールドやマウスシールドを購入し、サークル会員に配布したサークルもあります。

県手連総会は5月末に開催予定でしたが、各地区サークル休止という状況で委



任状が回収できない事態となりました。また、開催にあたっては3密を避けられないということで「中止」としました。

例年開催している一日研修会も今年は中止としました。

理事会は今回の件をきっかけに、リモート会議にチャレンジしました。

離島を抱える鹿児島県としてはもっと早くから検討していれば有用だったのですが、理事が機器に不案内であったことを理由に取り組んでいませんでした。諸々の条件で通信が途絶えたり、最後の部分は通信不能となったのですが、新型コロナウイルス感染拡大を機に試みることができたのは良かった点です。

#### 【災害関連】

下記の災害では被災したサークル会員、聴覚障害者の報告はありませんでした。情報提供として鹿児島県内の様子を添えます。

〔令和2年7月豪雨〕

鹿児島県北部、熊本県の球磨川の支流に位置する伊佐市山野地区浸水被害あり。

県東の鹿屋地区浸水被害あり。

〔台風10号〕

奄美地区は台風9号に続いての10号襲来で航空機・船舶の運航中止により物資の提供が途絶えた。

台風慣れている鹿児島県民だが、今回は予報で最大瞬間風速が80メートルと発表されたため、早い段階から準備に取り掛かっていた。個人的には町中に緊張感が漂うほどだったと感じている。台風最接近の予定は9月6日(日)であったが、2日前の4日(金)には、県内のホテルの多くが満室となった。

幸い、鹿児島に接近時には勢力が弱まっていたため思ったほどの被害はなかったが、「備えあれば患いなし」と、備えたことは無駄ではなかったという声が多く聞こえた。

鹿児島県 濱川

#### 編集後記

各県の通信員、原稿執筆者の皆様方には感謝申し上げます。  
また、このコロナ禍中の対応に、大変御苦勞された事と思います。  
これから寒くなる時期に、なお一層の注意、対応が必要になると思われます。  
皆様、健康には気を付けて活動を続けていただくよう願います。

発行責任者 池尻和吉

事務局長 森保夫

発行担当者 相馬悦子、高治克己（大分県）

発行年月日 令和2年10月